ライオンズクラブ国際協会 336-A 地区

四国ライオンズの「これから」---1

336 複合からの分割・独立への提言と試案

ライオンズクラブ国際協会336-A地区
(2023~2024)

元地区ガバナー・地区名誉顧問
川辺　信郎 Nobuo Kawabe
[徳島城山ライオンズクラブ]

高知キャビネット事務局
〒780-0862 高知県高知市鷹匠町1-3-35　三翠園3F
TEL&FAX 088-856-6105　E-mail kochicab@lci336a.org

勤務先／㈱ ビーエス工機
〒770-0873　徳島県徳島市東沖洲2丁目1番12号
TEL 088-664-6123　FAX 088-664-6199
携帯 090-2786-5588
E-mail nobuo.k@bs-kouki.co.jp

①

ライオンズクラブ国際協会 336-A 地区

複合地区分割・独立検討委員会（仮称）

2023 年 5 月

Tottori
Shimane
Okayama
Hiroshima
Yamaguchi
Kagawa
Tokushima
Ehime
Kochi

議長
MD336
Katashi IKEHARA
池原 堅
各準地区ホームページへ LINK
副議長
336-A
地区ガバナー
香川県 愛媛県
徳島県 高知県
Michio ICHIMURA
市村 通夫
副議長
336-B
地区ガバナー
鳥取県 岡山県
Shinichi NISHIO
西尾 慎一
幹事
336-D
地区ガバナー
山口県 島根県
Shigeru NAKASHIMA
中島 繁
会計
336-C
地区ガバナー
広島県
Hidetoshi YUMIBA
弓場 秀俊

1. 日本のライオンズクラブと複合地区

現況、日本ライオンズは 8 複合体制で日々奉仕活動が展開されている。また、その複合地区の在り方は「二つ以上の準地区からなる地域である」と定義付けられており、四国 4 県は複合 336 の準地区 A として、その地歩を固めている。同時に、336-B（岡山・鳥取）C（広島）D（島根・山口）とも同胞、同志として、その連携を強くしている。

一方、336 複合地区は 385 クラブ、13,187 名（2022 年 12 月 31 日国際本部集計）の会員を擁し、日本ライオンズクラブの一地歩を示している。

現在、複合地区を統括する上部組織は存在しないが、日本国内の複合地区ガバナー協議会をサポートする役務として 2016 年 7 月、（一社）日本ライオンズが設立されている。また、ここに至るまでの道程は平坦ではなかったし、その都度、実状にあった組織改革が行われ成長して来た。その、「組織を見直す」と云う観点から過去の変遷を振り返ってみる。

分割年月	分割対象地区	地区数	会員数	備考
1959 年 6 月	302 地区が東西に 2 分割	2	10,000	石川欣一氏国際理事
1964 年 7 月	302 地区を 10 地区に分割	10	40,000	10 回東京複合大会
1966 年 7 月	302 地区を 14 地区に分割	14	60,000	12 回名古屋複合大会
2005 年 6 月	333-A 地区を分割	33	126,000	山田實紘氏国際理事
2007 年 7 月	333-B 地区を分割	34	119,000	韓国テグで OSEAL
2009 年 7 月	337-D 地区を分割	35	113,000	山地氏協議会議長

日本ライオンズでは 2009 年 7 月を最後に、複合地区の分割は行われていない。併合も分割も行われていない時間軸は、その議論を必要とする問題意識が発生しなかった「平和」な期間でもあったかもしれない。しかし、今、会員数の漸減

に直面するなか、柔軟な即応体制が求められてくる。

そこで、総合的に俯瞰して、ここからは四国のライオンズを 336 複合地区から分割、独立させると云う視点でもって考察をしてみたい。もちろん改革には痛みと責任が伴うし、効果もあれば、副作用もある。そして、これらの議論の結果、「分割、独立の必要なし」と云う帰結もあり得る。それは尊重すべきであり、しないといけない。ただ、四国のライオンズクラブの今後の在り方に一石を投じる事ができたなら、この提言と試案は十分役割を果たした、と思っている。

2. 336 複合における A 地区の位置

前述のように、336 複合地区は中四国 9 県で構成されている。下記に 336 各準地区のクラブ数と会員数を確認してみる。(2022 年 12 月 31 日付け)

準地区	クラブ数	会員数
336-A	**137**	**5,201 人**
336-B	85	2,453
336-C	79	2,865
336-D	84	2,668
336 計	**385**	**13,187**

この一覧では A 地区の数字が際立っているが、四国 4 県で構成されているためで、これは自然数である。C 地区は広島県 1 県でこの数字を保持している。これはマーケットサイズとの相関で、やはり人口、鉱工業生産指数との比率は否めないし、C 地区自身の地力が表れている。

次に、複合地区費と負担金について確認する。複合地区会費は会員一人あたり 1 か月 300 円、年間 3,600 円である。このうち日本ライオンズ会費として 960 円（年間/一人あたり）を納めている。真水(まみず)として複合地区に納めている会費は、一人当たり 2,640 円／年となっている。

すべての組織は会費を原資として運営されている。そのうえで、複合地区においても、単に人数×年会費で表すと A 地区の拠出が大きくなっているのが以下

の表でも分かる。

各準地区の複合地区費負担金（日本ライオンズ会費を除く・2022～23 年度）

準地区	会員数	複合地区費納入額
336-A	**5,201 人**	**13,730,640 円**
336-B	2,453	6,475,920
336-C	2,865	7,563,600
336-D	2,668	7,045,320
336 計	**13,187**	**34,813,680**

だが、この納入額の多寡は議論の価値を持たない。会員数が多ければ多くの納入額となるのは当然である。しかし、A 地区は複合予算を多くの分母で支えているにも拘わらず、その分母に見合ったプラス面が目に見えてこない。これは卑屈な見方ではなく、やっかみでもない。ライオンズの奉仕の馬力が複合を通じて A 地区に再配分されているのかと、どうしても考えてしまう。

もちろん、複合組織は行政的機構であって、何らの執行機関ではない。だから、「奉仕のカタチ」まで複合に求めるのはスジが違うと、言われるだろうし、それは正しい。現に、複合としての会員の権利と主権は個々クラブに属しているのであって会員個々にはない。会員個々にないからこそクラブが先頭にたって、ライオニズムの進展に努めて行かねばならない。そのサポートを準地区のすべてのクラブは複合と共有できる位置にいるのだが…。

その意味では RC、ZC、クラブ会長の仕事も軽くはないし、複合からの落下傘報告を待っているだけでは、複合の大切さを会員に感じてもらえない。複合組織を十分、手許に引き寄せられていない現実は四国ライオンズの弱みではないか。

また、四国のライオンズが複合に納めている 1,370 万円は四国ライオンズのおカネではない、これは複合の活動資金である。その上で、この 1,370 万円を四国のために、137 クラブのために、仕事をさせたい。こう思うのは自己主義に過ぎるだろうか。

ただ、歴代の複合地区ガバナー協議会も、これら問題に真摯に取り組んでいた

だき、クラブ間の融和協力を促進させ、SON の主導、啓発など各準地区の円滑な運営に指導と協力に尽力していただいている。

3. 複合地区分割、独立のひかり

日本ライオンズは 1976 年 7 月に 8 複合体制に分割された。それは、以下の 3 つの理由による。

1. 会員増大のため、複合地区大会の開催が困難となった。
2. 地域社会と蜜着するには広域すぎる。
3. 世界の複合地区の平均とあまりにもかけ離れた現状で、複合地区の運営に支障が生じ始めたこと。

336-A 地区が直面している問題は「2.」である。336 は中国・四国の 9 県で構成されている。言い換えれば、中国地方と四国地方、いわゆる「地方」と「地方」の合体組織である。他に 9 地域（県ではない）で構成されているのは九州の 337 複合があるが、ここはまさしく「九州はひとつ」と言っても違和感はない。

336 は 9 県にまたがるが故に、13,000 名の会員は複合年次大会の度に、「旅行」に出ねばならない。

また、広域すぎる複合は移動距離だけが問題ではない。9 県の構成では県民性というか土着の発想を共有できないでいる。「それはあなた方特有の発想…」と一蹴され、議論に深まりが持てない。文化を分かり合えないと合意に至る道のりも長い。

歴代 A 地区ガバナーは「四国はひとつ」を喧伝し、これほど分かりやすいメッセージはないし、同志団結のキーワードとなっている。しかし、究極は「日本はひとつ」であり、「世界はひとつ」、この連帯を忘れている訳でもない。

また、指摘のひとつに「リーダーシップマインド形成の遅れ」がある。複合地区ガバナー協議会議長は複合の代表として我々を牽引してくれているが、その立場に立てる機会サイクルの円周が大きすぎる。この議長と云うリーダー役が持ち回りであれ、そうでなくても、優秀なリーダーを戴ける機会損失を生じさせ

る負の側面がある。A地区で複合が組成されれば、この距離感は一気に縮まるのではないか。

- **キャビネット事務局の固定化**

キャビネット事務局は毎年、新事務局を立ち上げ、人身も一新している。これを固定化することによって、什器・備品も継続的に使用できるし、定着した事務局員の知識は毎年、上積みされて行く。これら、おカネの節約だけではなく、キャビネット構成員の負担も軽減できるのではないだろうか。実際、四国の東西は約300キロメートルにまたがる。この距離を移動するキャビネットと会員の負担も大きい。

また、事務局の固定化は、複合と準地区キャビネット事務局の合同化にまで視野を広げることが出来る。この固定経費の節約効果は大きい。節約された原資は人への投資に向けることも出来る。

- **若いライオンズが活躍できる世界へ**

分割によって、小回りがきく複合となれば、キャビネットの仕事内容を知ってもらう機会は多くなるし、身近に感じてもらえる。この構図は若い指導者の修練の場となる。ここを起点として、国際理事に登る人材育成にもつながるはずだ。

若いライオンにとって、ガバナーと云う人物は「遠い、向こうの選ばれた、どこかの人」であり、「気心の知れた隣りの人」ではない。この認知のズレは会員世代の分断を生んでいる。何よりもガバナーの体温を感じられる地域と規模でもって準地区は形成されるべきではないだろうか。

4. 複合地区分割、独立のかげ

A 地区で複合組織を構築するには幾多のハードルがあるし、複合組成後も会員維持拡大に向けて、気の抜けない努力が必要となる。以下が手続きの概要である。

二つの準地区で構成するなら、一準地区に 35 クラブ、1,250 名以上のグッドスタンディング会員の在籍を確認

↓

336-A 地区で複合を構成する分割案の作成

↓

地区年次大会で分割案承認可否の審議をし、2 / 3 の承認要

↓

複合地区年次大会で分割案承認可否の審議をし、2 / 3 の承認要

↓

地区再編成案を国際理事会に提出

↓

承認後、次年度の国際大会閉会をもって再編成案は有効

予算の独立性においても細心の検証が求められる。現下、A 地区では複合費 13,730,640 円を拠出しているが、複合費の変更を前提にせず、この予算内での複合運営が課題となる。ここには、事務所運営費、職員給与、公租課税等が含まれており、緊縮予算の執行は避けられない。

会員の規模拡大は必須であるが、人口減少と相まって日本経済の縮小もあり、急激な会員増の見通しは不透明である。これらを対極に置きながら、分離、独立がA地区の繁栄につながる、と云う説明を明確に伝える工夫が要る。

5.「相互理解の精神を養い….」と云う葛藤

ライオンズの誓いに「相互理解の精神を養い」と云う文節がある。これはお互いを理解し合おう、と云う寛容の精神を説いている。今回の336複合からの分割、独立の試案は、このライオンズの誓いに合致しているのか。と云う逡巡はある。

四国ライオンズは自分の事しか考えていない、残された5県のライオンズクラブクラブの事は何も考えていないのか…、この感情は今後の議論のなかで出て来ると思われる。それ故に、独断的な発言は慎み、お互いを理解し合う、と云う基本ルールは双方に求められる。

以上

＊この試案は恣意的な部分もあろうかと思いますが、皆様の議論の一助になれば幸いです。

6. 準地区構成案

A 地区会員現況（家族会員含む 2022 年 12 月）

	愛媛 1～3R	香川 4～5R	高知 6～7R	徳島 8～9R
クラブ数	47	35	29	26
会員数	1,938 人	1,405 人	1,069 人	765 人
総クラブ数 137 クラブ / 総会員数 5,177 人				

準地区構成 2 案

香川・徳島で準地区＝61 クラブ　2,170 会員
香川・愛媛で準地区＝82 クラブ　3,343 会員
高知・徳島で準地区＝55 クラブ　1,834 会員
愛媛・高知で準地区＝76 クラブ　3,007 会員

中国・四国地方

ライオンズクラブ国際協会 336-A 地区

四国ライオンズの「これから」

336 複合からの分割・独立への提言と試案

ライオンズクラブ国際協会336-A地区
〈2023～2024〉

元地区ガバナー・地区名誉顧問
川辺　信郎　Nobuo Kawabe
[徳島城山ライオンズクラブ]

高知キャビネット事務局
〒780-0862 高知県高知市鷹匠町1-3-35　三翠園3F
TEL&FAX 088-856-6105　E-mail kochicab@lci336a.org

勤務先／㈱ ビーエス工機
〒770-0873　徳島県徳島市東沖洲2丁目1番12号
TEL 088-664-6123　FAX 088-664-6199
携帯 090-2786-5588
E-mail nobuo.k@bs-kouki.co.jp

②

ライオンズクラブ国際協会 336-A 地区

複合地区分割検討委員会

1：適応する力が要る

ダーウィンの進化論を待つまでもなく、生き残るためには変わらなければならない。彼の説は「強い者が勝つのではなく、環境の変化に適応した者が生き残る」である。外部環境に柔軟に順応し、それに合わせて進化した者だけが生き残る…、らしい。

ライオンズクラブはどうだろうか。メルビン・ジョーンズが 1917 年に実業家を集めて宣誓した「ライオンズクラブ協会」から今日まで、いくたの変遷を経ながら組織の改編を繰り返して来た。しかし、成長に伴って組織を拡大する「進化」はたやすい一方、順風から逆風に向かうとき、その縮小しようとするエネルギーは弱くなる。

ここでは、「ライオンズクラブ国際協会」と云う全面ではなく、336-複合地区と云う側面を考えてみる。私たちの奉仕活動の起点は、身近である準地区と複合地区であるからだ。そして、準地区には「地区ガバナー」が、複合地区には「ガバナー協議会議長」がいる。その役割りと果たすべき業務は異なっているが、私たちの奉仕活動は、この双頭のリーダーシップ・マインドいかんにかかっている、と言って過言ではない。それは、地区ガバナーエレクトは次期協議会議長を選任、選出する重要な選択権を持っているからだ。この選択権が有効に生かされて、準地区と複合地区は有機的に結びついている。

私たち 336-A 地区の立ち位置は、1 号レポートで（2022 年 10 月発行）で触れているので詳細は避ける。そのうえで、どうして私たちが変わらなければならないか、を一緒に考えていただけると素直に嬉しい。しかし、「336-A 地区は変わる必要はない」と云う意見もまた存在する。私たちはそのような意見を排除しないし、多様な意見が流通して、「四国ライオンズのこれから」が深耕されれば、この提案は価値を高めると思っている。

ここで冒頭に戻る。ダーウィンは「環境に適して変化した者が生き残る」と言う。四国のライオンズクラブは「生き残る」ことが至上ではない、息さえあれば、それは生き残っていることになる。そして、四国のライオンズがそんな仮死状態になるはずがない。だからこそ、もっと生き生きとした組織に進化する方法を、いま、この機会に一緒に考えてみたい。

2：環境は変化している

国際的な政治力学も変化している。グローバルサウスと呼ばれる国々の発言力も増すばかりで、キャスティングボードを握るほどだ。この現象を、336 複合地区と準地区 A の関係に置き換えてみる。言わば「336 複合の地政学的な情勢に地殻変動を起こす提案」として、であり、これは様々な選択肢を掘り起こす機運の醸成にもつながる。

少し乱暴だが、従来の複合地区を国連、準地区をグローバルサウスと見立てたらどうだろうか。国連は「世界平和」を担い、複合は各準地区の運営を「円滑ならしめる」ことを担っている。円滑は平和と同義語だ。そして「平和」は平等に配分されなければならない。しかし、国連は富の再配分を成し得ていない。だから、各地で紛争が絶えず、機能不全と揶揄されるゆえんである。もちろん、336 複合地区ではいさかいなど起こっていない。8 複合の中でも安定感はあるし、規模でも見劣りはない。しかし、規模を議論することには意味がない、複合は地域性で割り振られており、大小あって当たり前で、大がよくて小がその逆ではないはずだ。問題はその躯体が大きくなり、複合全体の血流が悪くなることでないか。血流が悪いから新たな細胞が分裂しない。

それは、地域の構成単位が広すぎることが一因だと考えられる。分割論議の源泉はここから始まる。336 複合地区は中国、四国地方の 9 県で構成されている。しかも、四国と云う「島」と「本州」と呼ばれている地域との合流体である。文化、伝統、県民性は別として、この広域過ぎる行政単位は分割してもいいのではないか。また、複合地区は国際協会の行政機関であり、何らの執行機関でもない。しかし、ガバナー協議会で決定された政策は地区ガバナーを通じて、管下のすべてのクラブに伝達され、実行されなければならない。

また、複合地区の会員はクラブ個々であるので、クラブ会長はその決め事を会員に報告する義務がある。あなたのクラブ例会でこんなやり取りはなかっただろうか「この件は先日、複合のガバナー協議会で決められたことです（だから、従いましょう）」複合組織は行政機関と言いながらも執行機関の一面を持っていることが分かる。

3：複合大会での「議案化」に向けて

ここで第 69 回複合地区年次大会（2023 年 6 月・福山市）を出席者数で検証してみる。

今年、複合年次大会で審議された議案は下記項目である。

1 号議案　国際理事立候補者について

2 号議案　複合地区年会費について

3 号議案　二人目家族会員について

4 号議案　学生会員の会費について

5 号議案　複合地区会計報告について

6 号議案　次回開催地について

以上 6 つはすべて議長提案であった。これら審議事項を振り返っても、複合と云う組織が行政機関であることがうかがえる。我々の活動を左右する核たる議案は少ない。次に、複合地区年次大会の登録状況を振り返る、以下の表である。

	クラブ登録数		会員登録者数		代議員
336 複合	登録クラブ/クラブ数	登録クラブ率	登録人数/会員数	登録率	登録者
A 地区	99/137	72.30%	469/5227	9.00%	332
B 地区	49/85	57.60%	226/2478	9.10%	129
C 地区	73/79	92.40%	553/2886	19.20%	268
D 地区	50/84	59.50%	137/2665	8.90%	134

この表から読み取れる傾向は見る立場の主観によって様々で、大きな意味は持たない。しかし、先走った妄想であるが、A 地区の分割独立の際には必ず、この複合年次大会の議案にこれだけのクラブ、これだけの代議員（69 回を例示として）に取り上げてもらわないと「正式議案」にはならない。入り口に立たなければ、ドアも開けられない。

これらから、「複合地区から A 地区の独立（分割）について」と云う議案を採択してもら

うまでのステップを川下から確認してみる。1号レポートには「国際大会決議」までの順序を記してある。この2号では、もう少し手前の大事なフィルターを確認する。

以下のながれである。

① クラブから地区年次大会に「A 地区を 336 複合からの分離分割させる議案」が提出され、議決される。

↓

② この可決文書を複合大会議長に提出し、複合年次大会での出席代議員の 3 分の 2 以上の同意を得て、正式議案となる。

↓

③ 正式議案として提出されれば、3 分間の提案理由を述べる機会が許可される。

↓

④ その後、出席して投票した構成員全員からの過半数の同意が得られれば可決される。

このように、可決までは機械的に流れていくように見えるが、実は多くの関所がある。重要な節目は地区年次大会での可決と複合地区大会での正式議案への「昇格」である。

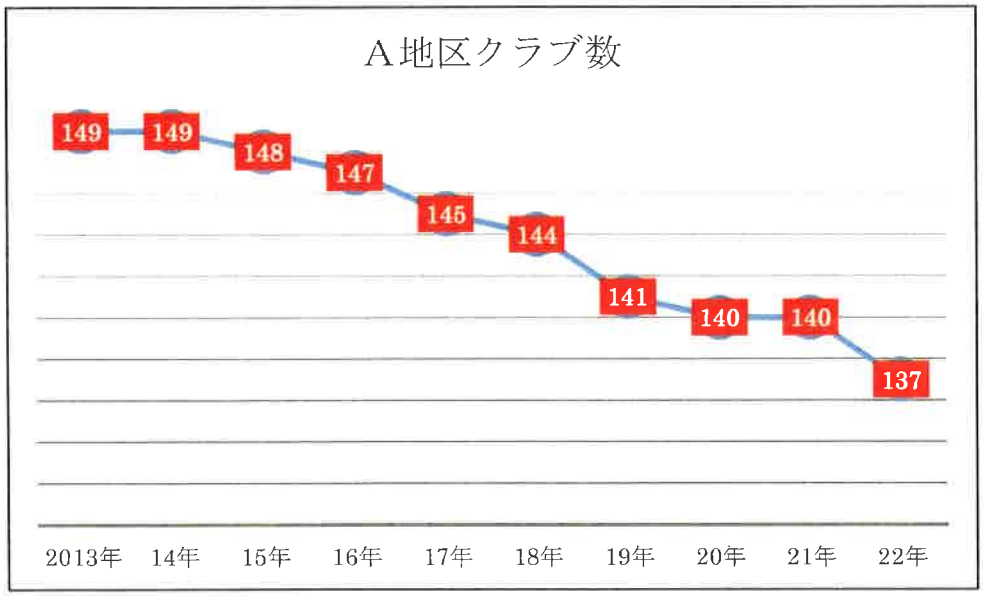
以下の表は A 地区の 69 回複合年次大会への登録率である。

	登録クラブ数		登録者数		代議員
	登録会員数	出席率	人数	登録率	出席者
336-A 1～3 R	37/47	78.70%	168/1938	8.70%	132
336-A 4～5R	29/35	82.90%	142/1405	10.10%	108
336-A 6～7R	17/29	58.60%	61/1069	5.70%	58
336-A8～9R	16/26	61.50%	98/766	12.80%	34

この表数字が、A 地区の基礎体力であるが、これは一瞬を切り取った数字であるので今後の予想値には使えない。ただ、このあたりが中間数値と見て大差ないのではないか。

4：「変わらなければならない」理由

ここからの説明と、複合からの分離独立論とは整合性がないように思えるが実はそうではない。分離、独立が協議される際には、現在のリジョン、ゾーンの再編成もワン・セットで議論されるだろう。それはA地区の体力強化、筋肉強化を前提にしないと、複合年次大会での「正式議案」への昇格に説得力不足が生じるからだ。



A地区の規模と現状を観察してみる。現在、A地区には9リジョン、26ゾーン、5,178人の会員がいる。また、リジョン、ゾーンの再編成は2010年に8Rが3Zから2Zに、2019年に9Rの3Zから2Z体制への移行を最後にゾーンの組み替えは行われていない。

近々においてはリジョンの再編は行われていないが、2013年と比較するとクラブ数が12減、会員数が2016年比で927名減となっている。これは336A地区も会員漸減という全国的傾向の中にいる証拠だ。しかし、歴代ガバナーは懸命な施策を打ってくれていた。家族会員、クラブ支部、レオクラブ等、精力的な提唱と実践に務めてもらった。それでも減少傾向に底がみえない現実は、日本経済の縮小だけが理由ではない。ライオンズクラブに対する誤解やクラブ単位での意識の共通化にムラがあったりするのもひとつだろう。ここを整理するのは複合でも地区でもなく、クラブ個々に負うとことが多い。

そのうえで、この数字と冷静に向き合う時期が来ている。リジョン数は、ゾーン数は機能的なサイズになっているか、否かの検証である。

現在、多くのリジョンで役職への就任依頼に苦労する場面が少なくない。これは自身の事業経営で時間がなかったり、家族の事情であったり、その理由は様々で、依頼した方は「そう言われると…」と飲み込んで、了承せざるを得ない。それでも、期末にはチャンと役職者は選出される。この整然とした人事は、当事者の「奉仕の精神」に負っているだろうけど、この人選へのロードが軽減される仕組みも再考されたい。当然、A地区分離独立の方向性が共有できた場合、このリジョン、ゾーンの再編協議は避けられない議論である。

このグラフは会員数の表示だ。2023年6月、直近の会員数は期首で5,178人である。組織の改編は「大きくなったので分割しよう」と「小さくなったので統合しよう」と云う議論から始まるが、今回の提言はこの二つの面を持っている。また、規模と併せて「効率性」も軽視できない問題だ。効率性はエネルギーの節約を意味する。四国4県で一人のガバナーは過酷なロードを強いられている。面積18,800平方キロ、東西約300キロを行ったり、来たりの週末は気の毒に過ぎる。

ガバナーにしてみれば、公式訪問、周年式典、複合会議、キャビネット会議等、と本来の役務のうえに移動コストも無視できない。また、金銭だけの問題でもない。年度ごとに繰り

返されるキャビネット事務局の開設と閉鎖。そして、その都度の事務局員の入れ替え、知識と経験の積み重ねが成されず、人的資源のプールが出来ていない。

これらに毎年多くの経費が費やされている。このおカネは誰が負担しているのだろうか ？そう、A 地区会員 5,700 名が拠出している浄財だ。四国で二つの準地区を組織し、二人のガバナーで支えて、四国で複合を構成する。この組織図は人の資源、経費の有効活用、共に効果があるのではないか。

しかしまた、336 複合から独立しなくても組織は再編成できる。ガバナーの深謀と識見でリジョン、ゾーンは変更することができるからだ。であれば、今すぐにでもリジョン、ゾーンの再編成に取り組み、その結果に分離独立の議論があってもいい。それは分離独立論議が先行したとしても、最後の仕上げでは必ずこのリジョン、ゾーンの調整が必要になる。会員数推移をみても、A 地区の体力は落ちているのは明白である。このまま 336 複合に同居し、緩慢に体力をすり減らすよりも、独立した予算のなかでより効果的に存在感を高めていく。それが「生き残る方法」ではなく、「勝ち残る方法」だと思う。

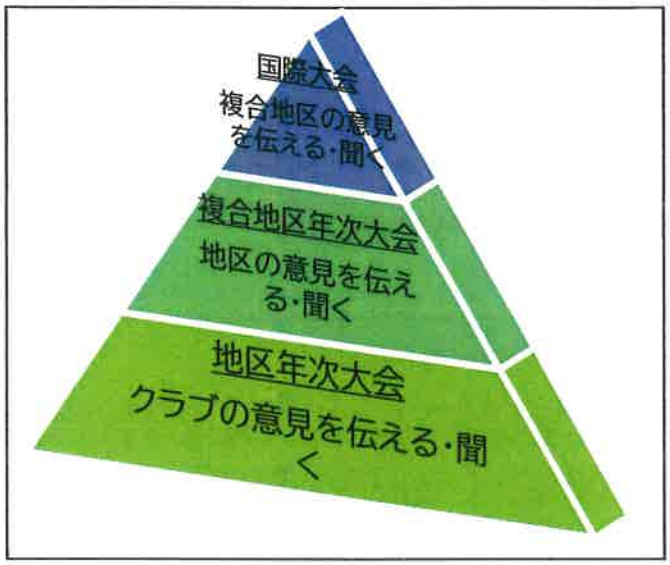
しかも、この分離独立運動の第一歩は、地区年次大会でこの案が可決されることだ。A 地区での足並みがそろわなければ、複合で正式議案に認めてもらうための表現力に苦しむ。

そして、もちろん予想している。「今の複合に留まっていいじゃないか、なぜ独立する必要がある」という声が出ることも。今後、二つの意見が並走する場合、A 地区内で十分な議論は必須で、結果、「今の複合に留まること」がキチンとした理由で総意となれば、それはそれで尊重されないといけない。

5：現複合地区とA地区の交叉点

次に卑近な見方をしてみる、おカネの問題だ。第 1 号レポートでも触れたが、A 地区は複合に約 1,380 万円の地区会費を支払っている、全体予算の 4 割を負担している格好だ。A 地区の会員数が多いので当たり前だが、これに見合った富の再配分がなされているか、否かを疑問に思うことがある。

予算の4割を負担していながら四国の意見は「少数派」で本州にはかなわない（ように思う）。瀬戸内海で隔てられた地形は目に見えない溝を生み、一部偏見化しているのではないか。もちろん過去、四国からも協議会議長は輩出している。例えば、A地区ガバナーが開かれた複合運営を標榜して、ガバナー協議会、複合地区役員連絡会議、年5回開催される定例会議等、これらのうち1回でも「リジョンチェアパーソンも含めたWeb会議か現地での会議方式にしてはどうだろうか」と議案提出しても、了承されないと思う。この検討項目は代議員制で諮られる総会ではないので、協議会構成員個々の大局的見地に期待するしかない。また、複合のなかで四国5,700人を代表したガバナーが持つ投票権は1票のみである。



年次大会は「セレモニー化して、無機質だ」と云う批判もある。しかし、この大会はとても大切な会議である。この重要性が浸透しないのは、組織が大きすぎて、風通しが悪くなっているからかもしれない。もっと意見が流通しやすい「小さな複合」に衣替えしてもいいのではないか。

この会員数にして1票の投票権で、四国ライオンズの総意が複合に反映されるだろうか。これらは会員が持つべき複合への帰属意識の希薄化に拍車をかけている。また、B.C.D地区で構成された秩序に置き去りにされているのではないか。

この現状をふまえ、A地区が336複合から独立した景色を想像してみる。二人のガバナーが複合と云う場所で四国ライオンズのことに膝を交えて協議することができ、ガバナー協議会議長は現場のナマの声を聴いてくれる身近な「知りあいである、あの人」である。政治的表現なら、ここにこそ「民意が反映された民主主義的政治」を見つけられる。

それぞれのクラブ益、地区益を多極的なシステムで追及できる共同体は「共通通貨」を持っているようなものだ。

【参考】

・このレポートを「キレイごとだ」と切り捨てることも受け容れるし、批判も意見もいただきます。早い時期に皆さま方の意見をいただく機会を設けたいと考えます。

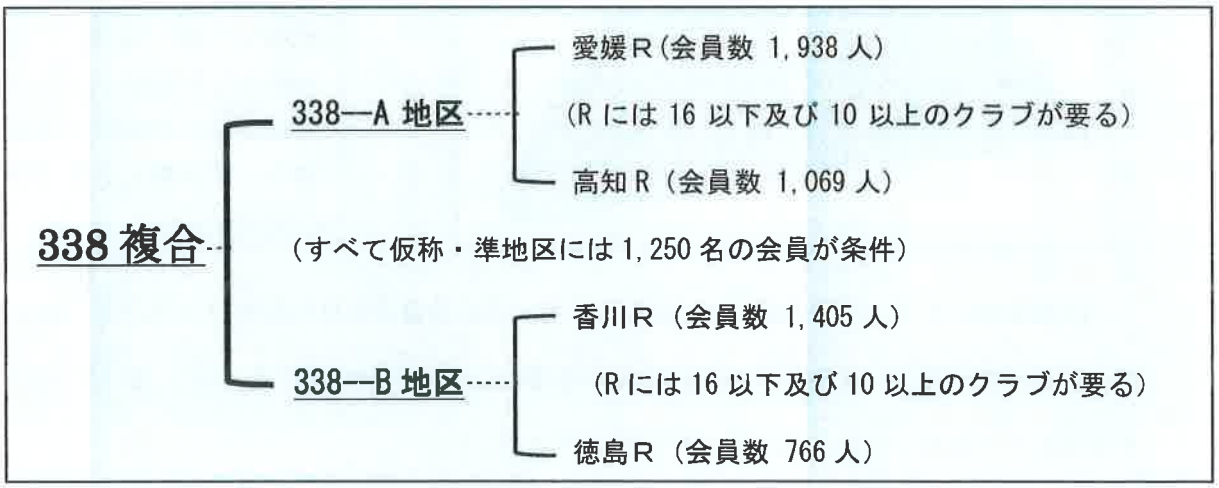
・文章表現が「…だ」、「…である」調になっていますが、これは表現方法のひと種類で一切の他意はありません、

・表中の会員数等が現在の正確な数字と一致しないカ所があるかもしれません。（会員数等は刻々と変わるので）おおよその数字としてお考えください。

6：A 地区の「味」を示したい

「ビッグデータ」(Big Data) と云う語がある。これは静まり返ったみそ汁の鍋から、表面の一滴だけをすくい出して口に入れる。この一滴だけで、鍋に入っているみそ汁全体の味が分かる、と云うするどい分析力を意味している用語だ。

私たち A 地区のみそ汁の味は、このビッグデータでは分からない。なべ底にしゃもじを入れて、何度も何度も深くかき混ぜてから「味」をみる。もちろん、大きすぎない適宜な鍋でみそ汁を作ることが条件だ。こうすることで四国ライオンズは実体に合った民主主義のもと、会員総意の議決（美味しい味）を創造できるのではないか。今の複合体制は鍋が大き過ぎて、調味料をどれだけ入れていいか、その量もハッキリしない。ましてや、混ぜるしゃもじも小さいような気がする。 これまで、A 地区が 336 複合から分離独立に向かう理由とその基本設計を述べてきた。では四国 4 県での複合体制を以下に仮想する。



1 号レポートでも触れているが、分離独立には多くのハードルがある。また、分離独立後も不断の努力が要る。独立して終わりではない。

8R, 9R の会員増強は喫緊の課題だ。今まで、多くの増強策が喧伝されてきたが、冷徹な数字は小さくなって行くままである。全国的な増強策も見聞きし、また A 地区独自の発案もあっていい。そのためには知恵を出し合う機会を多く持つ必要がある。

ライオンズクラブ国際協会 336-A 地区

四国ライオンズの「これから」…3

いただいた意見を踏まえて、議論を進化させる

336 複合からの分割・独立への提言と試案

③

ライオンズクラブ国際協会 336-A 地区
複合地区分割検討委員会
委員長　川辺 信郎
（2024/03/25）

【はじめに】

＊2023 年 5 月に「提言と試案①」を出稿させてもらい、同年 11 月に第 2 稿を提言しました。その後、数通の意見をいただきましたが、すべてが A 地区を案ずるが故の意見や思いであり、貴重な気づきもいただきました。以下、その意見と検討委員会の見解を交差させてみます。

▶ 世界の人口増加率は 1963 年にピークアウトしている

多くの意見はこれからの人口減を縦軸にし、そこから四国ライオンズ会員数を比例させた横軸で構成されており、この建て付けは、まさに正鵠を射ている。

人口減は四国の、中四国の、日本の問題だけではない。世界的な問題（危機）であり、すでに 1963 年に増加率はピークアウトしている。2020 年には 1%を下回り、現在は 0.8～0.9%である。更に、経済成長率は 1964 年の 6.6%を屈折点とし、今後は 1%の低空飛行が続くと予測されている。

一方、四国ライオンズを論ずるに、こんな世界的な調査数字を並べてもピンとこない。ピントこない理由のひとつとして、それは「厳然と受け入れる」しかないからである。これにどう対抗すると言っても、その手立ては一国民ではどうしようもない。人口減は分かり切っていることであり、ここに論調をおいても議論に深まりは期待できない、しかし四国ライオンズの会員動向と関連付けて、憂慮するのは至極当然である。

一方、意見者は「これだけ人口が減っていくのに、ライオンズの会員だけが増えるなんて情緒的な精神論だ」….との見かたを示している。この見通しも正解である。会員増はうわべの言葉では語れない、厚い壁がある。

ただ、我々も、「人口が減っているのにライオンズ会員だけは増える」などと、そんな生ぬるい幻想は持っていない。会員の維持、拡大に向けては悠長な情緒論を展開する時間などない、それらは歴代ガバナーの胸には痛いほど焼き付いている。だから、相対として人口減と会員減は、どの場面でも「織り込み済み」からスタートしないと時間の無駄になる。

次である、逆流に船を漕ぐことを避け、「時の流れに身をまかせ」て、行く先は見えるのか、と云う焦燥感がある、それは敗北の匂いさえもする。経営者の多いライオンズ会員

は、自社の朝礼で「世の中こうなので、何の策も打たずに流れて行こう」と訓示するだろうか、また、四国の人口とライオンズ会員の減少を予測しているが、では、336 複合地区の人口とライオンズ会員は減少しないのだろうか。

四国で減っていけば、複合でも減っていく。この危機現象はどこの場所に立っても同じ危機だ。と云うことは、複合に残っても、四国が独立しても「人口減」という洗礼は同じベクトルで受けることになる。こと、人口減に関して行く末を案じた結果、「だから複合に残るのが安全だ」とは一概には言えないのではないだろうか。まさに「前門の虎、後門の狼」の様相だ。

▶ 信号は何色、黄色か赤か

以下は 2024 年 2 月末の会員集計である。短期的な増減の波はあれど、長期的な漸減は否めない。その過去比は従前の提言・試案に記しているので、ここでは再掲しない。

.

336	クラブ数	結成	解散	増減	会員数	入会者数	退会者数	会員増減	%
A	135	0	0	0	5,070	303	261	42	(0.84%)
B	82	0	1	-1	2,396	144	114	30	(1.27%)
C	78	0	1	-1	2,823	166	130	36	(1.29%)
D	84	0	0	0	2,633	155	128	27	(1.04%)
計	379	0	2	-2	12,922	768	633	135	(1.06%)

この数字の見方である。「ここまで減っているのだから、ムダに動かず、ジッとしていよう」なのか「この勢力のうちに、試行と錯誤を繰り返し、四国の新世界を探ろう」なのか、だ。しかし答はそう簡単には見つからない。だからこそ、これに関連した多様な意見は貴重である。重層的な意見の流通は新たな気づきを与え、見えていない問題を浮き彫りにしてくれる。

我々は、分離・独立のメリットのみは強調はしない。果実を得るには、リスクと痛みをともなうのは当然だ。提案書②に、「分割・独立には多くのハードルがある、また分離独立後にも不断の努力がいる、独立して終わりではない」と記している。

また、複合からの独立論議とは無関係にして、いま直ぐにでも、リジョン、ゾーンの再編成が必要な点も強調している。この再編論議を四国ライオンズ全体で共有できるテーブルがあれば、更なるリスクに気づくこともあるだろうし、早く、この議論を採りあげてもらいたい。

視点を変える。我々はライオンズを育てなければならないのに、会員数漸減に支配され過ぎ、次の一手が打てないでいる。傍観し、閉塞感さえある。そこで、今の 5,000 名は再生に向けての「黄信号」と、とらえるべきではないだろうか。注意を促されている「いま」にこそ動かないと、このママ何もしなければ赤信号が灯る。すると、もう身動きが取れない。「赤」になれば止まるしかない。以下、いただいた意見をもとに、二つの問答を想定してみる。

①「分離・独立はクラブの統廃合を加速させるのではないか」

▶ 分離・独立を目指さなくても、現況にて既に与えられている宿題ではないだろうか。この再編を経ずして、独立は考えられない。小規模での R と Z の構成は効率と合理性に難があるし、旧態依然の「垣根意識」は新たな景色を展望させない。独立が統廃合を加速させるのではなく、現下の状況でも喫緊の課題である。

また、「統」はあっても「廃」はない。言葉遊びではない、「廃」は悲しい。四国ライオンズ全体で「再編意識」の醸成が浸透し、今回の、分離独立という議論を機に再編協議が進むことを期待したい。その意味では、これからの RC、ZC の仕事は軽くない。

②「会費の値上げは退会を招くのではないか」

▶ これは複合的因子がある。国際会費が 2023 年から 3 年間に亘って値上げされることは決まっており。（2023～24 年度：年間 46ドル、2024～25 年度：年間 48ドル、2025～26 年度：年間 50ドル）更にクラブ個別の事情も絡んだ上で、「値下げ」という現場は想像しにくい。

ディマンドプル・インフレは終焉しても、必然にライオンズ会費は値上がっていく。この必然な値上がりへの解釈は会員個々の判断にゆだねるしかないし、個々クラブ運営者の操縦桿にもよる。

複合から独立しても、しなくても会費の値上げは常に隣り合わせだし、今の複合にとどまっていて値上げが回避できる保証など、どこにもない。どんな組織形態であっても運営費はかさんでいくし、デフレでも物価指数は上がっていく。

▶ 独立後の複合規模は明らかに小さくなる

① インフラ規模

現複合事務局は 379 クラブ、会員 12,900 人の所帯規模で運営されている。A地区に絞り込むと 135 クラブ、会員 5,000 人の所帯になる。当然A地区用にインフラ設備も縮小して行く必要がある。現行複合費は 300 円/月であるがこれと同額で試算してみる。

収入合計	300 円×12×5,000 人=1,800 万円	会員の増減はある

支 出 費 目	経 費(万)	備 考
事務所賃貸料	12 万×12 月＝120 万	駐車場代は個別
事務員給与･フル	17 万×12 月×2 名＝408 万	社会保障含む
事務員給与･.パート	8 万×12 月×2 名＝192 万	社会保障含む
光熱･通信費	8 万×12 月 96 万	
事務機器リース料	1.5 万×12 月＝18 万	設置台数による
会議費	5 万×12 月＝60 万	Web 会議の推進
旅費交通費	7 万×12 月＝84 万	
日本ライオンズ費	80 円×12 月×5、000＝480 万	80 円はいつまでか
支出合計	1,458 万円	

この他にも、図書印刷費、慶弔費、消耗品費等が発生する。また。複合地区年次大会費の比重も大きい。その上で、この収支試算が「甘い」のか「まぁまぁこんなもの」なのかは分からない。意外と多くの費用が発生する費目があったり、その

逆もあるだろう。ここは実際走り出し、学習しながら修正するしかない。注意したいのは、上記は会員 5,000 人で試算していることだ。

② 人員規模

キャビネット構成員も肥大化している。毎年、スモールキャビネットは喧伝、標ぼうされているが掛け声との乖離はある。キャビネット構成員の線引き、人数、規模はガバナーの専権事項であり、そのガバナーの意向は尊重されてきた。

また、キャビネット構成員は無償の奉仕者である。しかし、人数が増えると経済的コストが増すことには違いない。そこはガバナーの識見に頼る事となるが、ここでもR、Zの再編が必要なことが理解できるのではないだろうか。

③ 複合地区年次大会費

もう一つ、注意したいのが「複合地区年次大会費」である。第 69 回・福山大会では、予算額 1,150 万円に対して 1,520 万円を支出している。いかにも膨張しているように見えるが、A 地区独立後は華美に仕立てないことが肝要だ。

大会費@80 円×12×5,000 人＝480万円が大会に充てられる予算である(一例)。地区運営費が@220 円として総額 1,320 万円、この使途内訳として、事務局運営 970 万円＋年次大会費 480 万円＝1,450 万円となり、130 万円の赤字スタートの綱渡り予算となる。 このあたりは会員への重要な説明事項である。

▶ 「独立ありき」が、独善で専行しているのではない

独立を問いかけた提言と試案書②には以下のように記してある。

「この分割・独立運動の第一歩は地区年次大会でこの案が可決されることだ。A地区での足並みがそろわなければ、複合で正式議案に認めてもらうための説得力に苦しむ。そして、もちろん予想している、「今の複合に留まっていいじゃないか、なぜ独立する必要がある」と云う意見が出ることも。今後、二つの意見が並走する場合、A地区内で十分な議論は必須で、結果、「今の複合に留まろう」がキチンとした理由で総意となれば、それはそれで尊重されないといけない」と述べている。

私たちはメリットばかりを強調しているものでもなく、独立ありきを前提にしている訳でもない。独立を検討する委員会ではあるが、多様な意見を受け容れる立場はニュートラルで、分割検討委員会にはアクセルもあれば、ブレーキもある。それらを同じ力で踏み込める平衡感覚も持ち合わせている。ここの倫理と節度は一同が確認しているところである。

▶ なぜ、独立を検討するのか

336 複合の中で、四国ライオンズは立場や考えを述べられているだろうかと、ガバナー経験者は疑問に思うことが多い。中国地方の 5 県に埋没しているのではないか。A 地区は 336 の「おまけ」ではない。複合は行政機関だが、投票権数であったり、OSEAL への協力金であったり、個々クラブに関係する決め事も成されている。

「言われるがママになびき、為されるがママに従う、そんなために 1,800 万円を出している訳ではない。」と云うのは言い過ぎで、失礼かもしれない。それは我々にも、議案提出権があるからだ。しかし、大会議事規則を検証してほしい、なんと議案提出行為が複雑で、厚い岩盤であることか。開かずの門である。ここが「四国ライオンズの立場や考えを述べられない」という思いにつながっている。それは複合会員数のうち、約4割占めている A 地区に与えられて投票権は、他の準地区同様に1票のみであることだ。

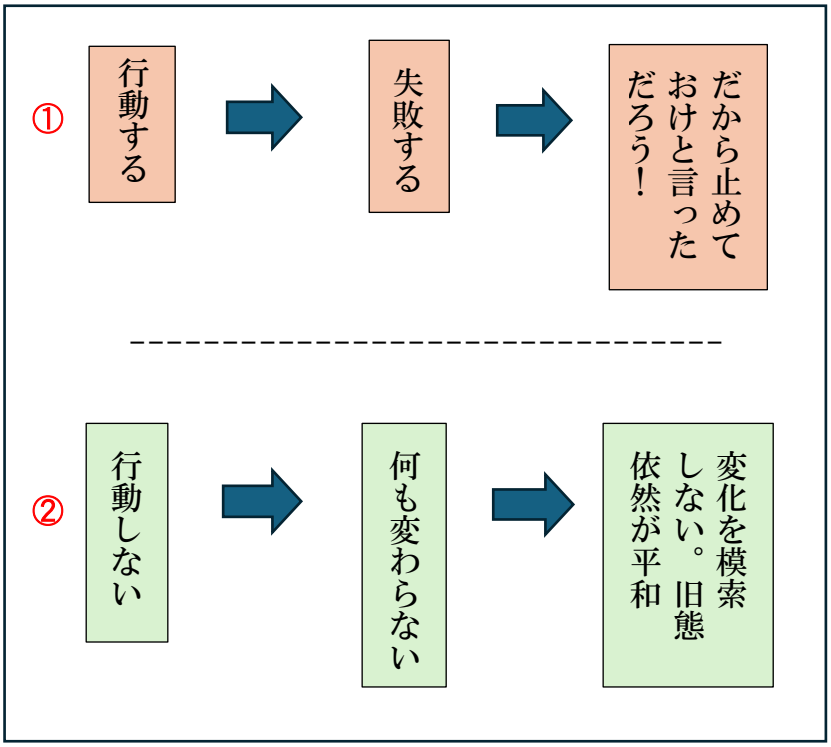
地区年次大会の議決は代議員によって成され、その代議員はクラブ会員数10人対して 1 名の代議員資格が認められている。この比例配分こそが民主主義ではないか。複合年次大会は「準地区の意見を述べて、聞いてもらう」大会でもある。これでは A 地区の声は複合では反映されにくい。

また、336複合が若者ライオンへの啓蒙を展開しきれていない現実がある。これはガバナー協議会に責任があるのではなく、大きすぎて細部に目配りできない物理的要因だろうし、複合が執行機関ではないからだ。。

現状の問題を共有してみる、これは複合の問題ではなく、準地区の問題提起としたい。四国で複合を作る、四国で二つの準地区を作る。これらはすべて「若者仕様」に向かっている。若者会員が増えないと、ライオンズの馬力はどうしても低下する。そのためにも、遠い存在である複合と準地区を、体温の感じられる組織に手繰り寄せる必要がある。

どうだろう、こんな現場を感じたことはないだろうか。せっかく若いライオンを迎え入れても、息苦しさを与え、そこは「結局、何を言っても無駄だ」と思わせ、退会を招いている。ライオンズと云うコミュニティが生かされていない証拠だ。

二つの準地区が機動力を持ったスモールキャビネットで若者への発信を続けたら、そして、自画像がライオンズ組織の中で見つけられたら、若者はライオンズの価値を見つけ易いのでないか。自分の意見が通る風通しの良さ。誰でも、自分の意見が俎上にあがり、議論され、批判され、そして認められたら、素直にうれしい。そんな機会を得てもらうためにも独立論議は必要だと考える。



ここはネガティブに考えることが一番のリスクのように思える。まず、行動。まず、挑戦、そうしないと、自然衰弱に身を任せることに何の抵抗感もなくなり、それは無責任とも思える。

こんな意見をいただいた。「独立しても、会員数も減って、資金もなくなり、行き場を失ってしまったらどうするんですか、元には戻れませんよ」と。この、意見者の忠告もよく理解できる。しかし、まだ顕在化していない問題に恐れる必要はあるだろうか。もちろん、問題が顕在化しない周到な準備は要るが、その問題にどう臨んでいくか、の協議ができるのが 5,000 人と云うこじんまりと、しかも四国で構成された複合ではないだろうか。

＊ パティ・ヒル国際協会 会長は「Mission 1.5」を掲げている、なぜか。

＊ 国際理事会では毎回、新しい議決がなされ変革を目指している、なぜか。

一部、いただいた意見書には、その宛名が「ライオンズクラブ国際協会 336-A 地区会員各位」となっているものがあります。地区会員に発信する以上は、キャビネットの了解を得た「公文書」となっていることを前提として、回答しております。

© 2024 Satomi. All Rights Reserved

複合地区独立及び準地区分割検討委員会を代表して
第３回キャビネット会議での発言のまとめ(主旨)

元地区ガバナー・地区名誉顧問　　真鍋 隆

ここ数年の会員数の動向を見てみると減少の一途を辿り又、物価高騰もあり地方の経済活動はなかなか上向かず、その上に少子高齢化が進みライオンズクラブを取り巻く環境も一段と厳しくなっています。しかし、今こそ四国のライオンズも変化、見直し、変革をし次のステップに取り組む時ではないでしょうか。

「四国はひとつ」の考えを重視しての今回の地区分割及び複合地区の独立は、この状況を打破し次世代への貢献の為にと元地区ガバナー達が名誉顧問会議で意見を出しあい分割検討委員会を立ち上げて１年以上に渡る議論を重ねてまいりました。その内容を以下に報告させていただきます。

①複合地区費、複合地区大会費の約 40%を四国地区が支払っているのに四国地区会員のメリットになっていないのが現状である。

・12 月末現在の会員数に当てはめると 1,144 万円の拠出をしている。
（日本ライオンズ賛助会費 80 円を除いた１人１ヶ月 220 円×12 ヶ月×4,336 名）
・オセアル広島大会開催時の赤字補填の為に A 地区会員１人 1,000 円を集めた上に特別資金積立金会計より 500 万円を拠出した。(他地区に比べて数倍の負担)
・大事な会議は複合地区ガバナー協議会で決定するが、4 分の１の声しか通らないのも問題で、四国地区を複合にしてガバナー協議会を持つ必要がある。
・複合地区 9 県は広域すぎると思える。複合地区 GMT コーディネーターの役職を 6 年連続務め、9 県を担当し講師として訪問したが、ガバナー時にお世話になった四国の会員のためにもっと恩返しをしたいと肌で感じでいます。

②キャビネット事務局の固定化を実行するには準地区を東四国と西四国に分割し、お金の節約と役員の移動等の負担も軽減した上で会費の値上げをしなくてもスモールキャビネットを実現すれば一時、会員減になっても十分やっていける。又、毎年次期キャビネットに送っている準備金 250 万円が現在少ないのではという声も聞こえるが現状のままでも大丈夫と思われる。更に、地区委員の活動費の増額に当てられるとも考えられ、クラブ負担を無くすることも可能になると思う。

③四国地区のガバナー1名が2名になることにより、ガバナーを多く輩出し若い年代の会員もガバナー職がより身近に感じられ目標となる。そのために勉強もして資質の向上と次世代の考え方を取り入れ、ひいては四国の会員がより活発に活動できるようになる。又、地区ガバナーが直接地区役員等を任命できる。(現在は四国は広い為にローテーション選出)そのことで適材適所のやる気のある会員の登用に繋がるし、ガバナー公式訪問もゾーン単位で実施可能となり、ガバナーも単一クラブに寄り添った指導ができる。つまり、会員増強、拡大が可能になる。

④複合地区からの独立及び地区分割のための原資(資金のもと)は準備できている。現在、地区特別資金積立金会計に3,845万円(次期キャビネット貸付金を含む)と地区緊急援助引当金会計に2,860万円を保有している。
準地区は35クラブ1,250名以上の会員が必要だが、12月末で
・東四国(香川・徳島)60クラブ、2,100名余(特典会員を含む)
・西四国(愛媛・高知)75クラブ、2,900名余(特典会員を含む)
と考えれば原資を地区費納入の会員数(特典会員を除く)で分配しても資金的には余裕がある。
※会員数で見ると、337-B地区(大分・宮崎)と東四国は同じ規模
337-C地区(佐賀・長崎)と西四国は同じ規模

以上、上記①～④を精査し、四国の単一クラブや会員のためにも、リジョンやゾーンの再編も考慮し、さらなる会員の理解を深めて次世代への貢献となるように真剣に議論する時が来ているように思います。そうすることにより四国の未来が開かれることを強く願っています。

１　メリット

・文書の簡便化
・複合地区、準地区の事務局の固定化が可能となる。
・上記に伴い、事務局員の人数が少なくてすむ。従って経費の節減となる。
・事務局員が固定化されることにより事務負担が軽減される。
・複合地区事務局が近くなり交通費の減少が見込まれる。
・３３６－A 地区の LCIF も寄付金が今迄みたいに最下位になることがない。
・四国は一つという理念の下準地区の各クラブが切磋琢磨するようになりクラブの活性化が図れる。
・ガバナーを輩出する機会が多くなる。

２　デメリット（問題点）

・現在の複合地区では A 地区人数が多いにもかかわらずの優位性がない。
・現在の複合地区では広すぎて交通に不便である。
・人口減少や高齢化に伴いクラブや会員の減少が続く。
・事務局員が固定化されることにより賃金が上がる可能性がある。
・事務局員が固定化されることにより事務局員の権限が増す可能性がある。
・ガバナーのレベルが低下する可能性がある。
・毎年ガバナーの選考に苦慮する。

２　分割方法（２０２２、7月１現在）

・A 地区（愛媛県・高知県）約２，１００人（子会員２９４人）
・B 地区（徳島県・香川県）約２，８００人（子会員５００人）

336-A地区が336複合地区よりの分離独立を考える　2024年8月5日

元地区ガバナー、地区名誉顧問　酒井　公一

猛暑が続いておりますが、りょうまLCの皆様ご健勝の事とお伺い申し上げます。

今回のライオンズ情報は、皆様ご存知の、我々336-A地区が336複合地区よりの分離独立をして、新しく338複合地区（仮称）を立ち上げようとの動きが、一昨年あたりより川辺元地区ガバナー及び地区名誉顧問の間で出ております。

そもそもこの分離独立の話は、2001年～2002年辺りにも動きがあったようです。理由は分かりませんが立ち消えになった経緯があります。

この問題は、上位役員のみで進めてよい問題では決してありません。あくまでも、各クラブ会員の納得の上での決定が何より重要です。

この一年2025年1月～2月頃までよくよく勉強をして決断をすべきと考えます。

来年４月に坂出で行われる年次大会の代議員選挙において、分離独立の賛否を問うことになると思います。分離独立の地区割は、香川県と徳島県が338-A地区、愛媛県と高知県が338-B地区になる予定です。ここでは、私の考える分離独立の良い分、注意したい事柄を上げてみたいと思います。

分離独立の利点

①複合地区の行動範囲が四国内に限られるので、動きやすくなり、経費も抑えられる、特に会議の多い役員の方は楽になる。（D地区の島根県までは片道６～７時間かかる）

②資金面に於いても、地区特別資金積立金は3800万円以上あり、緊急援助引当金に付いても2860万円以上あるので、分離独立に必要な資金も充分である。

③事務局開設に付いては、複合事務所、A地区、B地区の合同事務所を四国の中央的な場所に構え、事務局員も最小限に抑える事により合理的な運営が出来る。

④複合地区及び地区年次大会も工夫を凝らして合同で行う事により、経費が抑えられる。

⑤複合地区の奉仕事業費及び運営費の面に於いても、四国の資金の会員の為に使われるので大変有効である。今迄はA地区が約1400万円(全体の40％)の負担をしている割に四国に対する恩恵が少ない。

⑥意欲のある会員のガバナー及び役員になる機会が増える。

分離独立に心配な点（要注意点）

①役員（特にガバナー）の輩出、高知県では近年地区ガバナー輩出に大変苦慮している。
分離独立すると、高知県から３年に一人はガバナー輩出が必要となる。
各クラブ、真剣にリーダーの育成を行い、50代60代の意欲のある人材育成が必須。

②複合地区役員組織及び地区役員組織の人数が多数となる為に、重複した役員構成になるので役員が多忙になる。

③338複合地区を日本ライオンズから見て充分な影響力のある複合地区と認めて貰う為に、人材交流も含め相当な努力が必要である。

④人口減少に伴い今後更なる会員減少が心配されるが、この点に付いては、独立しなくても同じである為に、更なる会員増強の努力が必要である事に変わりはない。

この分離独立問題は各クラブ、会員の機運を高め大半、納得の上での判断が大変重要であると思います、今後何かに付けて、困難な事例が起きた時に各クラブ、全会員が一致団結して困難を克服していく覚悟を持って分離独立しなくてはなりません。それが出来た時ライオンズの明るい未来が開かれるでしょう。